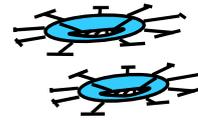
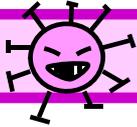


# 感染症に気をつけよう!

2017年【10月号】

## 横浜市内の感染症流行状況



感染症	流行状況		説明 【解説付き既刊号】 ← クリック
腸管出血性大腸菌感染症	★ 多発	→ 横ばい	報告が多い状態が続いています。例年、気温が高い10月頃まで、多く発生します。【'17.9号】
手足口病	★ 警報	→ やや減少	7月中旬に、 <u>警報レベルの流行</u> になりました。まだ報告が多く、警報は解除されていません。【'17.7号】
RSウイルス感染症	★ 流行	→ やや減少	例年、冬に流行しますが、 <u>早く増え始め</u> ました。その後も、多い状態が続いています。【'16.10号】

## 今、気をつけたい感染症 インフルエンザ



- すでに、学校や高齢者施設で、集団発生も報告されています。
- 9月中旬には、今シーズン初めて学級閉鎖が行われました。

今シーズン：2017年秋頃から2018年春頃まで



- 子供ではまれに急性脳症を、高齢者や免疫力の低下している人では肺炎を伴う等、重症になることがあります。
- 予防の基本は、正しい手洗いの習慣です。
- もし咳や熱などの症状が出てしまったら、咳エチケットを守り早目に受診してください。



- 熱が下がってからも、数日間は人にうつす可能性があります。
- 学校等については、【症状が出てから5日間が過ぎ、かつ、熱が下がった後2日間(幼児は3日間)は休むこと】とされています。
- かかりつけ医に相談しましょう。

